

第1学年 国語科学習指導案

日時 令和5年6月16日(金)
子ども 1年 吉田(寛)学級 28名
指導者 吉田 寛典

I 単元名

「おおきなかぶ」のおんどくげきをしよう
中心学習材「おおきなかぶ」(光村図書1上)
補助学習材「てぶくろ」「お月さまってどんなあじ?」

<授業の見どころ>

子どもたちが、どんな読み方がよいか考えることを通して、登場人物の行動や表情などをイメージしたり、行動の理由を想像したりしていきます。

II 単元の指導構想

1 単元について

○ これまで子どもたちは、幼稚園や保育園の読み聞かせや劇遊びを通して、物語を楽しみながら声に出して読んだり、役になりきって演技したりしてきた。入学後は、担任や保護者ボランティアによる読み聞かせを楽しんでおり、物語の大まかなあらすじを捉えながら、結末に起こる出来事に面白さを感じている様子が見られる。また、文学的な文章の学習においては、「はなのみち」の物語を学習した際、叙述を正しく読むことに気を付けながら、言語活動として音読を行った。その中で、挿絵と叙述を結び付けて読み取ったことをもとにして、会話文を付け足す活動を行い、場面の様子や登場人物の行動について想像を広げながら楽しんで読むことができた。しかし、想像したことが叙述に結び付かず広がっている子どもも見られる。今後は、これらの学びの文脈を生かし、物語を声に出して楽しみながら読むとともに、場面の様子や登場人物の行動に着目して、叙述を根拠にしなが想像を広げていく学習活動を行う必要がある。

○ 本学習材は、おじいさんがまいた種からできた大きなかぶを、みんなで力を合わせて抜くという物語である。物語の中には、「○○を～がひっぱって」「うんとこしょ、どっこいしょ。」「かぶはぬけません。」などのリズム感のある語句が多く用いられるため、繰り返し出てくる表現の面白さを感じながら音読を楽しむことができる。また、この物語は6つの場面からできており、場面が進むごとに1人ずつ登場人物が加わってかぶを引っ張るという展開から、役割ごとに音読したり動作化したり挿絵と叙述をつないだりすることで、場面の様子や登場人物の行動、会話を手掛かりとしながら、内容の大体を捉えることができる学習材である。

設定した言語活動は、音読劇をすることである。ここで想定する音読劇とは、登場人物によって読み手を変えたり、かぶを引っ張る動作を付けたりしながらグループで音読の劇をすることである。このような役割読みや動作化を通して、登場人物がどのような順序で出てくるか、その登場人物は何をするか、結末ではどのような変容があるかなど、話の内容を「順序」「登場人物の行動」に着目して物語の内容の大体を読み取るようにしたい。また、「読む人数」「声の大きさ」「速さ」などを工夫しながら文章を声に出して読むことを通して、繰り返しの面白さやリズムを感じ取る楽しさを体感したり、場面の様子などの叙述を基に登場人物の行動を想像した会話文を付け足したりしながら、物語を楽しんで読むようにしたい。

○ 指導に当たっては、次の三点に留意する。

一点目は、追究する問いを明確にすること【手立て1】についてである。単元の第1次では、物語を読んだ感想を交流する際に、「面白いと思ったこと」「ふしぎに思ったこと」を共有する。次に、言語活動のモデルを提示し、「やってみたい」「どう読むといいかな」という思いを共有する。これらの活動を通して、教師が子どもの発言を板書で整理しながら、単元の学習課題「お話にぴったりの音読劇をしよう」を設定するようにする。また、モデル提示では、場面の様子に合っていないモデルも提示し、書かれていることに合う動きや表情、読み方の工夫が必要であることを押さえる。このモデル提示を通して、単元の学習課題を解決するために明らかにしたいことを共有し、単元をどのように学んでいくとよいか、単元の終わりにはどのような姿を目指すのかを見通すようにする。

【手立て1 「学びの文脈」のデザイン】

二点目は、複線型の単元構想【手立て1】についてである。単元の学習課題である「お話にぴったりの音読劇をしよう」を解決するために、どんな読み方が場面の様子に合っているか考える学習活動を設定する。この活動で読み方を考えたり音読したりする人数を自己決定・自己選択し、一人一人が課題の解決に向けて、言葉へ主体的に働きかける展開となるようにする。【手立て1 「学びの文脈」のデザイン】

三点目は、思考が深まる学習活動【手立て2】についてである。「なぜ○○なのか」と解決したい学習課題について、自分の考えをまとめたり友達と交流したりした後に、全体で考えたことを共有するようにする。その際に、教師が子どもの発言を整理・分析しながら問い直したり板書したりすることで、子どもたちが自己の考えを振り返り、見つめ直すようにする。これらの学習活動を展開していくことで、自分とは違う友達の考えに驚いたり、考えを組み合わせる新しい考えを生み出したりして、学びを深めていくようにする。

【手立て2 よりよく学ぶ3つの視点】

2 単元構想図

単元の目標

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
〔知識及び技能〕(1)ク
- ◎ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 (1)ク	① 「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 C(1)イ ② 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 C(1)エ	① 進んで、場面の様子や登場人物の行動を捉え、学習課題に沿って、音読劇をしようとしている。

復興教育との関連

- いきる「④夢や希望の大切さとやり抜く強さ」
どんな状況においても、諦めずたくましく生きていくという強い意志と態度を養う。
- かかわる「⑨仲間とのつながり」
友達とかかわることを通して、考えが広がったり学び合う楽しさを感じたりする。

他教科・領域等

全校音楽集会

- 「歌唱練習」
- ・ 見ている人に届けたい思いが伝わるように、語のまとまりや言葉の響きに気がつけた呼びかけや、歌い方の工夫(声の強弱・動き)を考える。

音楽 1年 6月・9月

- 「うみ」・「きらきらぼし」
- ・ 歌詞の表す情景を想像したり、絵や写真から場面の様子を捉えたりして、曲想に合った体の動きや声の出し方を工夫して表現する。

資質能力の高まり

教科の学習内容

入学前の学び
絵本の読み聞かせを聞いたり、簡単な劇遊びを楽しんだりする。

1年5月
「はなのみち」
お話を声に出して読む。

本単元 1年6月
「おおきなかぶ」のおんどくげきをしよう
中心学習材：「おおきなかぶ」
言語活動：おんどくげきをしよう

1年7月
「おむすびころりん」
声に出して読み、昔話に親しむ。

1年9月
「くじらぐも」
人物の言動を思い浮かべながら読む。

他教科・領域等

読書 「繰り返しのある物語(絵本)」
・ 幼稚園や保育園の読み聞かせや劇遊びを通して、物語を楽しみながら声に出して読んだ経験。

見方・考え方を働かせるポイント

- 「主語」「述語」, 「接続詞」や「副詞」
- ・ 「だれが」「どうした」を正しく理解し、「それでも」や「とうとう」などの接続詞や副詞の働きに着目することができるようにする。

願い

- ・ たくさん音読したいな。
- ・ お話の劇をしてみたいな。
- ・ お話の内容に合った読み方で音読したいな。

教科の力

- 書かれている文章を正しく読むことができる子どもが多い。
- 文章を大きなまとまりで捉えることが難しい子どもがいる。
- 想像したことが叙述に結び付かず広がっている子どもがいる。

子どもの実態

3 単元の指導及び評価の計画（全6時間）

次	時	○学習活動	◆研究の手立て	評価規準 評価方法
1	1	<p>○ 題名からどのような物語か想像する。</p> <p>○ 初発の感想を交流するとともに、音読劇のモデルを提示し、単元の学習課題を設定する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">おはなしに ぴったりの おんどくげきをしよう。</div>	<p>【手立て1 問いを追究する複線型の単元構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 題名『おおきなかぶ』の「おおきな」に着目し、かぶの大きさや物語の展開の想像が広がるようにする。 ◆ 感想の交流と音読劇のモデル提示を通して、「～してみたい」「どう読むといいかな」という興味・関心、問題意識を共有し、単元の学習課題を設定する。 	
2	2	<p>○ おじいさんが種をまき、大きなかぶができた場面の読み方を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">はじめのところは、どんなよみかたがいいのかな。</div>	<p>【手立て2 思考が深まる学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 『『あまいあまい』や『おおきな おおきな』は、なぜ2回繰り返しているのか』と問うことで、おじいさんがどんな思いでかぶをまいているのか捉えるようにする。 <p>【手立て1 問いを追究する複線型の単元構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 読み方を考える際に、組む人数を自己選択・自己決定し、読み方を考えるようにする。 	<p>【知識・技能①】 音読・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉の響きやリズムに注意して、明瞭な発音で文章を読んでいるかの確認。
	3	<p>○ 登場人物がどの順序で出てくるか確かめる。</p> <p>○ かぶが抜けるまでの場面の読み方を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">かぶがぬけるまでのところは、どんなよみかたがいいのかな。</div>	<p>【手立て2 思考が深まる学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 挿絵の順を入れ替えて提示し、子どもたちが正しい順序に並び替えることで、登場人物が出てくる順序や、大きさの違いを捉えるようにする。 <p>【手立て1 問いを追究する複線型の単元構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 読み方を考える際に、組む人数を自己選択・自己決定し、読み方を考えるようにする。 	<p>【思考・判断・表現①】 音読・観察・発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面の様子や登場人物の言動に着目し、内容の大体を捉えているかの確認。
	4 本時	<p>○ かぶがぬけた場面の読み方を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">かぶがぬけたところは、どんなよみかたがいいのかな。</div>	<p>【手立て2 思考が深まる学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「なぜ、かぶはぬけたのか」と問うことで、登場人物がでてくる順序や行動に着目して考えるようにする。 <p>【手立て1 問いを追究する複線型の単元構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 読み方を考える際に、組む人数を自己選択・自己決定し、読み方を考えるようにする。 	<p>【思考・判断・表現②】 音読・観察・発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面の様子に着目して、登場人物の表情や様子をイメージしたり、行動の理由を想像したりしているかの確認。
3	5	<p>○ 場面の様子に合った音読劇の練習をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">おんどくげきのれんしゅうをしよう。</div>	<p>【手立て1 問いを追究する複線型の単元構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 音読劇の練習をする際に、組む人数を自己選択・自己決定し、発表に向けて練習するようにする。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度①】 発表や練習の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面の様子や登場人物の行動をもとに、今までの学習を生かして音読劇をしようとしているかの確認。
	6	<p>○ 音読劇の発表会をする。</p> <p>○ 単元の振り返りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">おんどくげきのはっぴょうかいをしよう。</div>	<p>【手立て1 問いを追究する複線型の単元構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 単元を通して、「楽しかったこと」「できるようになったこと」を振り返り、学びを実感するようにする。 	

Ⅲ 本時の指導

1 目標

場面の様子に着目して、登場人物の表情や行動の理由を具体的に想像することができる。

2 評価規準

【思考・判断・表現】

登場人物の出てくる順序や行動に着目して読みながら、かぶが抜けた理由について叙述と結び付けて想像している。

＜努力を要する状況の児童への手立て＞

どこに書かれているか、登場人物が何をしたのか、挿絵の様子はどうか教師と共に確かめ、かぶが抜けた理由について考えることができるようにする。

3 展開（4／6時）

段階	学習活動 ○ 発問	時間	◆ 研究にかかわる手立て ・ 予想される子どもの反応	・ 留意点 評価
導入	1 学習課題の把握 ・ 前時までの読み方の工夫を振り返る。 ・ 本時の考える場面を確かめる。 (ねずみを呼んできたところから抜けたところまで)	3	<ul style="list-style-type: none"> だんだんと声を大きくした。 出てくる人が増えるごとに、読む人の数も増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物が増えていくことが分かるように、登場人物ごとに分かれた挿絵を提示するようにする。
	2 学習課題の設定 かぶがぬけたところは、どんなよみかたがいいのかな。	2		
展開	3 課題の解決の見通し ・ これまでに身に付けてきた読み方の工夫を提示する。	2	<ul style="list-style-type: none"> 「とうとうかぶはぬけました。」だから、やっと抜けたって気持ちでいると思う。 これまで一生懸命引っ張ってきたから抜けて嬉しいねって話していると思う。 <p>【手立て2 思考が深まる学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「かぶは、どうして抜けたのか」と問うことで、登場人物がでてくる順序や行動に着目して考える。 <p>つかう つかう</p> <ul style="list-style-type: none"> ねずみは小さくても、みんなが協力して一つになり、大きな力になったから抜けたと思う。 <p>【手立て1 問いを追究する複線型の単元構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 音読劇をする人数を自己選択・自己決定し、場面の様子に合った読み方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 声の大きさ、速さ、表情、読む人数などの読み方の工夫を振り返るようにする。 全員で声を揃えて読んだり、班ごとに分担したりして読むことを繰り返して、楽しんで音読できるようにする。 <p>【思考・判断・表現②】 発言・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> かぶが抜けた理由について、叙述と結び付けて想像している。
	4 学習課題を解決する (1) 場面の様子を捉える。 ・ 場面を音読しながら内容を捉える。 (2) 読み深め合う ・ 「とうとう」や挿絵の表情に着目して、かぶが抜けたときの登場人物の気持ちを想像する。 ○ かぶが抜けたときにみんなはどんなことを話しているのでしょうか。 思考が深まる学習活動 ・ かぶが抜けた理由について、これまでの場面の様子と結び付けて考える。 ○ かぶは、どうしてぬけたのですか。	10 15		
	(3) 音読劇の練習をする。 ・ 読み深めたことをもとに、読み方を工夫しながら練習する。	7		
終末	5 振り返り ・ どんな読み方をするとよいか、考えたことを発表する。 ・ 本時の学びを振り返り、分かったことやこれから生かしたいことを発表する。	5	<p>期待する子どもの振り返り例</p> <p>みんなで力を合わせたから抜けたことが分かったので、みんなで声を合わせて一番大きな声で「うんとこしょ、どっこいしょ」と読むようにしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時を通して分かったことや変容した考えを共有し、学びの深まりを実感できるようにする。
	6 次時の学習の見通し ・ 音読劇の通し練習することを見通す。	1		